

第14回 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会の要旨

1. 開催日時 : 令和8年3月10日(火) 14:05~15:25
2. 場 所 : 尾原ダム管理支所(雲南市木次町平田 211-5)
3. 出席委員 : 石飛 厚志 委員長、作野 広和 委員、中村 典子 委員代理、安部 弘美 委員、
景山 利則 委員、糸原 保 委員、佐々田 大樹 委員、
綿貫 純也 委員、堀江 研次 委員、児子 真也 委員



4. 議事次第
 - 1) 開 会
 - 2) 挨拶 (委員長 : 石飛 厚志 雲南市長)
 - 3) 出席者紹介
 - 4) 議 事
 - ① 尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告
 - ② 令和7年度のプロジェクト実施状況
 - ③ 令和8年度の実施プロジェクト(案)
 - ④ その他
 - 5) 閉 会

5. 配付資料

- ・ 資料-1 尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告
- ・ 資料-2 令和7年度のプロジェクト実施状況
- ・ 資料-3 令和8年度の実施プロジェクト(案)

6. 議事要旨

1) 挨拶

- ・ 全国に誇れる水源地域の活性化に向けた取組をしていただいておりますことに、感謝を申し上げます。また、日頃から尾原ダムの管理等を行っていただいている国土交通省・島根県雲南県土整備事務所の皆様に改めてお礼を申し上げます。
- ・ 今後、ハイブリッドダムの取組みが進む中で、これを契機に地域を活性化しようという取組みがスタートを切るということでもある。
- ・ 2030年の国民スポーツ大会がこの地で開催される。これを目指してこれらの取組みが加速していく。これから伸びていく。そうした環境がすこしずつ熱を持ち始めていく。
- ・ 奥出雲町 長者の湯さんの改修が終わって、やっとこれからまたこの地域にたくさんの方がきていただけるという環境が整いつつあるとそのように感じている。
- ・ まずは、これまでの取組を振り返りながら、令和8年度に向けて皆様と一緒に盛り上げて、新しいチャレンジをしながら進めていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



2) 議 事

① 尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告

- ◆事務局より「第13回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会」以降の取組状況について報告があり、承認された。

【事務局説明内容】

- ・ 第13回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会 指摘事項
「イベントを知ったきっかけがケーブルテレビ3%となっている。ケーブルテレビの広域ネットワークができていますので、行政の協力の下、情報発信

していけば、情報が即飛び交うと思う。」については、NPOさくらおろちで、さくらおろち湖祭り・クレストゲート点検放流のPRを雲南夢ネットに出演されて実施されている。また、国土交通省のほうでも記者発表・「X」での広報を実施している。

「尾原ダムクレストゲート点検放流イベントに来た人が2,500人でアンケート総数が98人ということであった。少しアンケートの数が少ないのでは？」というご指摘をいただいた。

対応としては、本部前やエレベーター塔の前でエレベーター待ちをされている方にアンケートをお願いして、アンケート回答者に景品を配り、アンケート数の増加を図った。

アンケートの分析の結果、回答年代については20代から70代以上は、ほぼ同じような割合となっている。参加目的としては、クレストゲート点検放流が61%となっている。来られた場所は、雲南市からが8.1%、奥出雲町が12.2%、松江市が23%、出雲市が21.6%、安来市が1.4%となっている。

「アンケートを見ると、市外、県外、全国からいらっしゃっているということなので、できるだけ発信力を高めていくようなやり方ができれば」という指摘をいただき、対応としては、記者発表・「X」での広報を実施している。

さくらおろち湖活性化ネットワーク会議・尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会事務局会議の活動報告については、令和7年3月17日に、第13回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会を開催。令和7年度、毎月1回のペースで事務局会議を開催して、尾原ダム水源地域ビジョン年間計画・CSR活動・さくらおろち湖祭り・クレストゲート点検放流イベントについて議論している。

【委員からの主な意見】

- ・今回のアンケート結果を見たときに、インターネット系は結構入っているが、ケーブルテレビの効果はどうだったのか。
- ・インターネット・フェイスブックから情報を仕入れている。この効果が極めて大きいと思っている。今後、ポスターやチラシを作ったりするが、影響度の大きいネットを使うことに注力されたほうがよいと思う。

② 令和7年度のプロジェクト実施状況

◆事務局より令和7年度のプロジェクト実施状況について説明し、承認された。

【事務局説明内容】

- ・令和6年度においては、佐白温泉の部分休業の影響があつて、全体の来場者数が10万人を切りつたが、さくらおろち湖祭りや各種スポーツ大会を例年どおり開催して、イベントへの参加者は増加した。
- ・尾原ダム水源地域の活性化として、湯水調整・ハイブリッドダムの取り組み・DXの取り組み・さくらおろち湖祭り2025の取り組みを紹介。また、令和8年度より弾力的運用を実施予定であることを説明。
- ・トレイルランニング大会、トレイルループランニング大会・ロゲイニング大会、CSR活動、遠足ウィーク、志津見ダムとの連携(コスモス祭りでのパネル展等)、尾原ダム見学の状況、情報発信(SNSによる広報)、奥出雲サイクリング、柿園の維持管理(干し柿づくり)、「名月観賞会」の実施、森林整備・管理(伐採した竹をチップ化し、管理用通路に草押さえとして使用、無償化配布、七夕の笹竹提供)、ビューポイントの発掘(さくらおろち湖写真コンテスト)、尾原ダムの魅力発掘(クレストゲート点検放流)、さくらおろち湖魅力発見ツーリズム、さくらおろち湖湖上花火の開催、さくらおろち湖祭りなどの取り組みを紹介。

【委員からの主な意見】

- ・草刈りロボットは、完全全自動で動くのか？リモコン型なのか？
- ・ダムの水位が下がることによって、公有水面の利用の面で何か影響があつたのか。ボート競技とか。
- ・昨年、出水期の田んぼに水が要る時期、4月・5月・6月の時期には、十分に尾原ダムから水を補給させていただいた。下流の一般の市民だけでなく農業の利用者の方も含めて、尾原ダムの利水補給に感謝の言葉をいただいている。この場を借りて、水源地の皆様にも報告させていただければと思う。

③ 令和8年度の実施プロジェクト(案)

◆事務局より令和8年度の実施プロジェクト(案)について説明し、承認された。

【事務局説明内容】

- ・令和8年度のプロジェクト（案）・方針（案）の説明。
- ・4月から11月にかけて、ボート競技施設や自転車競技施設でローイングなどが開催される予定。

【委員からの主な意見】

- ・尾原ダム水源地域ビジョンと一緒に木次線の利用促進ができないか？
また、ダムについては、ダムマニアという固定のファンが全国にいる。鉄道に関してもいろんなファンの方が全国から木次線にわざわざ乗りに来られたりとういことがあるので、何かタイアップできることがあれば今後考えていけたらよい。
- ・関係機関の努力によって、尾原ダム及び周辺のみでかなりの集客や発信力があるということがわかった。昨年度課題とされた情報発信も積極的にされていて、大変すばらしいと感じている。
尾原ダムの魅力を発信し、地域の持続に向けて手を加えるということをやっ
ていかなければいけないという印象である。現状、どちらかというイベント型になっていると思う。
尾原ダム周辺地域の持続のため、地域の魅力・資源の発掘・活用も同様だと思
っている。イベントやこういう動きが地域の政策とつながっているという
ことを整理し、見えるようにし、お互いが有機的な連携をしていくというよ
うなステップに入っていけないといけないと考えている。
- ・10年ぐらいやめていた夏祭りを立ち上げて、去年やった。大体5月くらい
になると若者たちが、そろそろ会議をやらなきゃと自主的に行動するよう
になってきた。
- ・農業遺産のことがあって、各課で連携してやっていこうということにした。
- ・尾原ダムを見に来て木が生え過ぎて、ダムが見えないというのが一番残念
なことである。
- ・地域おこし協力隊をおろちの里に配置したりしている。
- ・奥出雲町から指定管理を受けて、みざわの館という宿を平成24年から運営
させていただいている。
- ・湖上花火 主催の団体からは昨年で最後だという話をいただいている。一方
で、湖上花火を育ててほしいという話もある。湖上花火を続けていくには、
具体的なアイデアが必要だと考えている。

④その他

【委員からの主な意見】

- ・もう世の中は地域活性化ではなくて、次のステップへ行っている。地域の持続
とか、縮充という表現を使って、地域が縮小しないことを考えている。